

ひじりの声 上田 藤市郎

毎年八月には広島、長崎の原爆による犠牲者慰霊の式典が開催される。あの戦争は日本の国家が起こしたもので、日本軍は近隣諸国に向向いて他国の軍人や民間人を殺し、最終的に日本軍や日本の民間人が米国をはじめ他国の反撃によって犠牲となった。ロシアとウクライナの現実そのものであった。戦争は、他国の人間を殺すことができるように人間の心を変えてしまうのである。ここで忘れてはならないのは、殺しに行く人と殺される人は、いづれも一般の市民であるということだ。戦争を指揮している国の責任者は危険な場所へは出向かないし、敗戦後も生き延びている。そして、かれらは言う、「選挙によって選ばれ、国民の多数意見に従ってこの戦争を行ったのである」と。

「民主主義」といえども必ずしも万全なものではない。多数決を悪用すれば、政治を任された党や為政者が独裁者であれば、憲法を変えることができるし、裁判官も支配できる。かつての日本がそうであったように戦争に反対する市民を拘束して投獄することもできる。中国、ロシア、ミャンマーにその例を見ることが出来る。

今の日本の憲法のように、国家が戦争を始めることができないようにするのは、一定の歯止めにはなるが完璧ではない。平和を維持するために兵力を増強する論理は拒否しなければならぬ。それは戦争につながる。

令和四年度 定時総会が開催される

今年度は、コロナ感染防止対策を講じて、定時総会を心のセミナーと併せて、六月十一日(土)に安曇川公民館にて開催しました。今年度の主な事業の計画、および新役員は次の通りです。また、心のセミナーでの吉田公平先生のご講演内容は、四頁をご覧ください。

今年度の事業実施の方針

◎中江藤樹先生の遺徳に親しむ高島市民をはじめすべての人々に対して、先生の思想の現代的意義研究、顕彰及び普及を図るため、当会のビジョン「温かくて深い、近江聖人中江藤樹の『孝』の思想を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広める」に沿って、以下の事業を行う。

- ・心のセミナーとして、二月ごろ藤樹先生の教えに関係する適切な講師を招いて講演会を実施する。
- ・表彰事業は、令和五年の定時総会時に実施するよう準備する。
- ・毎月、藤樹人間学塾を行って先生の著書『鑑草』を学ぶ。
- ・藤樹紙芝居CDデータをアフレコ編集し、高島市内の幼保小中学校に無償配布し、一般販売も行う。
- ・小学校における道徳の授業に使える「藤樹紙芝居」の授業プランの活用を推奨する。

- ・保育園、幼稚園、こども園、区自治会等で藤樹紙芝居を上演して、先生の教えが子供たちからお年寄りまで幅広く親しまれるように図る。

- ・当会の趣旨、活動内容が周知されるよう『会報高島藤樹会』の充実を図り、年3回発行する。
- ・小中学生から藤樹先生についての作文を募集し、会報に掲載する。
- ・三月七日の立志祭(小学三年生)に理事が出向き、お話や記念品贈呈を行う。
- ・ホームページを当会の活動にリンクさせて、さらに充実を図る。

新役員の紹介(敬称略)

常務理事 へ()内は担当委員会

- 田中 清行 (会長・学習)
- 淵田 豊朗 (副会長・フォーラム)
- 三田村治夫 (企画広報)
- 今城 克啓 (表彰)
- 伊庭 郁夫 (思想普及)

理事(再任)

- 川越 清司 飯田 典子
- 清水 鉄次 川島 達郎
- 前川 為夫 木村 健治
- 志村 洋 武田 基裕
- 淵田 京子

理事(新任)

- 藤原 浩之 嬉野 公人
- 海東 英和 西沢 恵利
- 地村 俊彦
- 監事(再任) 松井 清 西澤 幸夫

「藤樹紙芝居」のCD化とその配付・販売

思想普及委員会が中心となって、より身近な方法で多くの市民の方々に親しんでいただけるよう「藤樹紙芝居」に音声吹き込んでCD化しました。令和三年度には、次の五作品を制作し、市内各園・小中学校、図書館に寄贈し、また、一部を一般販売としました。

- 「馬方又左衛門」「車が田に落ちた」「そばやかんばん」「志を立てる」「大野了佐を教える」

なお、それぞれのCDを活用した道徳科の学習指導案を作成し、小中学校に配付しました。

